

永康部落

台東・延平



祈りの音、狩人と天地の共鳴

永康部落は台東県延平郷の東北に位置し、鹿野溪と鹿寮溪流がこの地を流れ、住民の多くがブヌン族です。彼らは狩猟を得意とし、山林の旋律を感じ、祈りの歌（八部合音＝八部和音）を歌い継いできました。ブヌン族の画曆には季節ごとの作業と祭事が記録されており、そのうち最も知られている祭事が「射耳祭」で、毎年、樹齢百年のアカギの樹の前で行われます。勇士がここに集まり狩りの獲物の恵みと部落の存続を感謝します。そして、文化やタブーを子供たちに伝え、伝統を忘れないように子どもたちに伝えることが、この射耳祭の本来の意義です。

烏尼囊（ウニナン）はブヌン語で「感謝」、「感恩」を意味します。故郷に戻りルーツを訪ね部落が寂れているのを目にした胡明智と王美華夫婦は、「烏尼囊多元文化工作坊」を立ち上げ、志を同じくする部落の人々とともに運営しています。長年故郷を離れていた間の感慨と感謝の意味を込めて「烏尼囊」と名づけ、初心を忘れないようにしています。「烏尼囊工作坊」ではブヌン文化のミニトリップを行っており、山林での狩猟を学び、採集、野外料理を体験し、ブヌン歌謡と物語を聞き、伝統的な打鹿岸（Taluan）に泊まることができます。こうしたブヌン文化の物語の継承や体験を通し、永康部落でのブヌン生活を旅人の皆さんに体験してもらっています。

